







太平洋に黃金線をゑがいて  
出で行く正貨一億を突破!!

▲ 日 本 近 信 ▼

## 唯一の防禦手段は金利上げ

ドル買の相殺作用なければ

## 重大なる政策轉喚か

英國金本位制停止、加奈陀の再金輸出禁止、米準備銀の再利上げ、低下した其の結果政府は正貨金を中心に巻き起る等々の世界維持の孤城に立籠つて正貨現送果内地のドル買に対する相殺作用をもつて居たが其の通額遂に用に依つて防禦線を築かんとす二億圓を突破し、十一月四日の意圖をもつものであると豫想されるが若し相殺作用が起るに對し正らざれば重大な政策轉喚が起るものと豫想されて居る

## 利上げ年末金融は

案じられる事業界の打撃

### 硬化

〔東京五日〕日銀の利上げに伴ひ臺銀、解銀の利上げも豫想さる  
病中の母が父の飲酒の度の過ぎるのを見兼ねて床の中から「休にさりりますから餘り飲まないでください」と言葉つた。それが聞かれた父親はすぐ立ちあがつてものも言はず母親曰がけて足下にあつた靴を立ち上つた父親は「親に投げだな、親不孝、ゴクタブ」立つておらず市界の安定を期するとして主として都市財界の金融流通に於ける影響は及ぼさない所で、銀行を勤務して今春の議會で成るに至つた、即ち其對策の具對方法は

「地方銀行の金融流通を圖つて地方財

界に備ふるものと、商業金融の調査する

として且合同の利上げの結果豫

想される金融硬化の對策として

特殊銀行を動員して善處すべく

各々交渉を遂げて手筈を整備す

るに至つた、即ち其對策の具對

方法は

「この二方面から對委を進むべく、而

して地方銀行の金融流通については勤

業、農工、北拓を勤員し今春の議會で成

るに至つた、即ち其對策の具對

## 藏相は紙幣増發を

不可なりと断じた

但し一時的調節は認める

聯邦臨時政府大臣オズワルド・アランニヤ氏は新聞記者連

の質問に對し大略次の如く答へた

現政府の意圖は紙幣増發を不可とする何

故ならば、我國は全く窮屈の状

あるが、我國はそれ程まで行詰まつて

あるからだ、我が伯國に於てはまだま

だ努力、機力、富力、國民の力等により

紙幣發の弊害を阻止して得るのであるふ

其の經濟の異常なる動向に對する

紙幣による通商のみ許さる

べきであつて、現在の如き場合は紙幣增

發を用ひるべきものではない、ニーメス

労働國民理事會長より發表され

たところに依れば、既に政府の

案にもあつたやうに中央銀行を設

置し、政府直接手などをすして一般の要

求に應じ、經濟界を圓満に進展せしむる

いふ策を考へ且つ努力を

善なる國民として吾々は考へ且つ努力を

してある

紙幣増

るべきである

現政府の意圖は紙幣増發を不可とする何

故ならば、我國は全く窮屈の状

あるが、我國はそれ程まで行詰まつて

あるからだ、我が伯國に於てはまだま

だ努力、機力、富力、國民の力等により

紙幣發の弊害を阻止して得るのであるふ

其の經濟の異常なる動向に對する

紙幣による通商のみ許さる

べきであつて、現在の如き場合は紙幣增

發を用ひるべきものではない、ニーメス

労働國民理事會長より發表され

たところに依れば、既に政府の

案にもあつたやうに中央銀行を設

置し、政府直接手などをすして一般の要

求に應じ、經濟界を圓満に進展せしむる

いふ策を考へ且つ努力を

善なる國民として吾々は考へ且つ努力を

してある

紙幣増

るべきである

## 山本農學士出發

豫て報道の如くカムビーナスの

東山農事會社農場主任の山本喜

舉司氏は昨日サンントス出帆のサ

## アツシス農相

◇政界ノヒターテ◇

南伯に出發

内國人雇傭令

延期となつた

内國人雇傭令

届出は本月末まで…

居出は本月末まで…

労働國民理事會長より發表され

たところに依れば、既に政府の

二以上は内國人を探用しつ

ある實證を労働局へ提出する期

日は本月末日まで延期され、そ

れ迄に右手續を履行せざる者に

處置を執る由である

貿易動靜

サンントス港

一月以降十月までサンントス港

のそれは一・二二八・一九五〇

ス五九九ミルの輸出あり、昨年

より一・四〇七・五四八コント

ス五九九ミルの輸出あり、昨年

のそれは一・二二八・一九五〇

ントス六五九ミルであつた、所

が英貨換算では去年の二八・一

四八・一三〇ボンドに比し二一

・〇六六・〇〇〇ボンドといふ

不景氣となりフエーラの値段が

行きよいので野菜業者は恵まれ

てゐたが、それが昨今メキキリ

不健康に歎く  
植民地の光明は  
尊い犠牲者の豫防には  
奏効的確な偉効で  
簡単容易な使ひ方  
そこでも快感裡に  
使用出来る

感長男一登儀十一月廿九日午後三時半突然不慮の災難にて死去致し當町共墓地に埋葬仕候間申上げ候

立花源三郎外二名  
齊藤榮作  
吉田鐵三  
清水正男  
小篠健一  
見世君二  
中平透  
宮村フミ  
宮太郎外二名  
利國太郎外二名  
坂本政市  
西元未八外一名  
前田亥之吉外二名  
長谷尾島太郎外二名  
大久保ユキエ  
アナスタシオ町  
ソロカバナ線アント  
アナルド氏は五日前六時からアント  
農相邸に參集約二時間に亘り會談があつ  
てガショエイ会談に端を以て、その間に開  
復歸促進運動に關する政府の對策意見を  
互に交換して結果アントス氏が南大河  
に交渉及びフローレスダ・ソニナード將  
軍に交渉し、また南大河方面に進行する圓滿な結果を以て決定した模様だ。

視ての上又同じサンントス丸で羅

在は約一ヶ月の豫定だと

北米經由日本行き

大阪商船出帆時刻

さントス出帆時刻が是れまで

一定せざる爲め不便を感じたが

彼下れ且つ又多分の御香

典を頂戴致し、一々御拜謁申し上げ候

尚ほ葬送の際は御孝忙中

を御會葬又引續き御焼香

彼下れ且つ又多分の御香

典を頂戴致し、一々御拜謁申し上げ候

**平井八郎兵衛の巻(五)**

細心の注意を拂つて、繁みの中から分け出で来る敵を、気が付き得ないとは何たる不幸である。彼は八郎兵衛の氣付かずの片われで、潮田の高弟秋山某である。彼は八郎兵衛の氣付かずの間に、その背後に寄り詰める太刀を大上段に振り冠つた如何に達人名人でも、一方に全精力を注いでゐる時、思はぬ所から、密かに寄る敵に對しては防ぎようがない。拂り冠られた太刀の下に、八郎兵衛はまだに氣付かぬとは危しとも危し、風前の灯火だ。

**五 石地像の製装斬**

ちつと構へて、前面の勘十郎を中心、八方に眼を配る八郎兵衛、月を後ろにしてゐたから、自分の切先が月光に照り反つてゐた。とその切先が突然落つた。然も、見れば地上に映る明かな人影、一連の八郎兵衛も全身冷水の走る程の心地を感じた。が、忽ち數本の刃が風を捲いて飛んで來るであらう。慌てた態度は決まつた。今、なまじ體の備へを焼へた。とその切先が突然落つたが、それもほんの一瞬時、屹々と覺悟は決まつた。八郎兵衛は面前の影を見た。八郎兵衛は面の影を見た。大刀を振り冠つた背後の影、狙つと斬り下す。

名人は咄嗟の場合にも、迷ふことなく最良の手段を案出するものだ。八郎兵衛は面前の影を見た。大刀を振り冠つた背後の影、左肩を落すやうにして身を翻へせば、待ち構へてゐた八郎兵衛、左肩を落すやうにして身を翻へせば、秋山の體は已れの力と共に、思はず前めりとなる。其處を頸かさす拂ひ下げる一刀、胸體真げ之を試験發表されたるに對し、記者は國日平山氏を訪ひ製造の

**日本酒「味の酒」****製造の苦心談**

日本酒「味の酒」

日本酒「味の酒」